

調殿新聞

(第6号) 発行日 H26年12月22日 (月) 制作 西都商業高校 生徒会 22HR 得丸晴可



若人の絆！復興支援事業

本県高校生による被災地支援 本校からは生徒会長が派遣されました

本事業は「本県の高校生が、東日本大震災で被害を受けた宮城県の高校生と協力し、宮城県を訪れての本県学校の生産物の配布やボランティア活動、本県内での宮城県特産物のチャリティーバザー等を行うことで、被災地の復興を支援するとともに、被災時の支援者としての視点から、社会に参画する意識を高める」という目的のもと、県教育委員会主催で実施されたものです。

12月11日(木)

宮崎空港 7時20分集合
出発式 7時50分
宮崎空港 8時50分発
中部国際空港 10時着
中部国際空港 10時35分発
仙台空港 11時40分発
宮城野高校と交流 12時20分

研修一日目は上記の日程で動きまわりました。宮崎空港到着後は皆緊張の表情を浮かべ、私もとても緊張していました。本県から参加したのは、県央地区の普通科、工業、農業、商業、海洋、支援学校からの生徒33名、先生方が



「ありがとう。よく来たね。毎年とても楽しみにしてるよ。」住民の声に心温まる本県高校生たち。



新たに建設中の堤防

17名でした。大宮高生の代表挨拶で出発式が行われ、教育長の激励の言葉やテレビ局の取材で、これから私が参加する事業の大きさに一気に緊張が高まりました。宮城野高校に到着する頃には、やっと仲間同士打ち解け合い、皆笑顔が溢れていました。空港からバス移動の時、初めは更地しか見えませんでした。家が建ち始めました。どれも新築の家ばかりでした。津波で全て流された、最近建ったばかりの家のようでした。古い家も見えましたが、丘の上の方に建っていました。昼食は宮城野高校美術科一年生と食べ、交流会では一

宮城県山元町

緒に万華鏡作りをしました。この万華鏡は、仮設住宅に住んでいる子供たちに配布するものです。



地震で破壊された校舎の一部

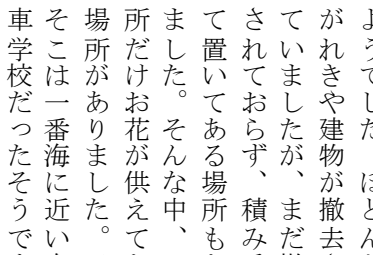
12月12日(金)

山元町役場
被災地現場視察
山下中学校で昼食・交流会
りんごラジオ出演
資料館見学

研修二日目はこのような日程でした。この日はバス移動でした。AKB48が山元町に寄付したバスもありました。震災の日の出来事を聞いたり、その現場を見たりしました。町長が話してくれた中で、次のような話がありました。新築の家を11ヶ月で津波で流され、愛犬を亡くしてしまった人のお話です。家族は無事だったものの、家族のように思っていた愛犬が被災し、来る日も来る日も涙を流していたそうです。私はこの話を聞きながら自分のペットの事を思い、涙が



AKB48から寄付されたバス



3・11で時の止まった時計



避難所になった中浜小学校旧校舎



死者が多く出た自動車学校跡地



手付かずのままの中浜小学校内部

出そうになりました。この話を終えたあと、役場を出て海沿いの方にバスで移動しました。辺りを見渡す限り、あの3・11の時が止まっているかのようでした。ほとんどのがれきや建物が撤去されていましたが、まだ撤去して置かれておらず、積み重ねて置いてある場所もありました。そんな中、一箇所だけお花が供えてある場所がありました。以前そこは一番海に近い自動車学校だったそうです。一番海沿いにあるということ、この自動車学校に通っていたほとんどの学生がここで亡くなられたそうです。それから奥の方へ進み、中浜小



山下中学校の生徒との交流会

12月13日(土)

シクラメン配布
イルミネーション見学

研修三日目。本県農業高校生が育てたシクラメンを六百世帯に配布しました。上の大きな写真はその時に撮影したものです。私が抱いている犬は震災で生き残った犬のマロンちゃんです。当初は千三百世帯仮設住宅を建て、今では約半分の人々が自立し、引っ越したそうです。私たちが一軒一軒回ると、待ちきれずに出迎えてくれる人たちもいました。「ありがとう。よく来たね。毎年楽しみにしてるよ。」と心待ちにしてくれている声を聞き、雪の中冷え切った体が一気に温まりました。家に上がらせてくれたお



農業高生のシクラメン配布

ばあちゃん、足が不自由で歩くのも精一杯、と話してくれました。その方は丘の上に避難しようとしていましたが、足が痛くて上がれず、地面に座り込んでいたそうです。その時、近々を通りかかった男性が、「そこにいたら死ぬぞー！」と叫んだそうです。その言葉が何回も何回も頭をよぎり、少しづつ丘に向かい、やっとの思いで着いたそうです。自分が覚えているのはここまでで、気を失って気づいたら病院のロビーの椅子に寝ていたそうです。患者が多くベッドは満員で椅子や廊下で大勢の人が寝ていたそうです。もうすぐ四年を迎える今でもあの時の「死ぬぞー！」という言葉が頭をよぎるそうです。涙を流しながら話してくれました。仮設住宅は思っていたより広く、日常生活が送れる広さでした。しかし耐用年数が二年なので、床の方から湿気で腐ってきており、アルミをはったりして寒さを防いでいるそうです。また、仮設住宅は風をよけるために風除室というものがありません。これは玄関の前にもう一つドアがあり、靴箱やインターホンなどもこの部屋に置いてあります。仮設住宅がある場所は元々は田んぼだったそうです。

12月14日

仙台空港 11時55分発
 中部国際空港 13時10分着
 解散式 13時50分〜14時
 中部国際空港 14時25分発
 宮崎空港 15時45分着

研修四日目は移動のみでした。中部国際空港であつた解散式では、海洋高校の生徒が代表挨拶をし、私はインタビューを受けました。一番印象に残ったことと、それをどのように伝えていくかについて聞かれました。私は全てが流され、破壊され更地になつていた風景、シクラメン配布の時、感極まり泣いてくれたおばあちゃんの顔が印象に残っていると答えました。また、私は商業高校生なので、ホームページなどに記事をアップして伝えていきたいと答えました。



他校の参加生との一枚

編集後記

四年前の3月11日、私は中学一年生で、お別れ遠足で高鍋の蚊口の浜にいました。学校に戻って部活動の時間帯に、先生が「外にいる生徒は全員武道場に行きなさい！」と大声で叫んでいました。私の通っていた中学校は武道場が二階にありまして。「津波のおそれがある」と職員室でテレビを見ていた他の生徒から聞

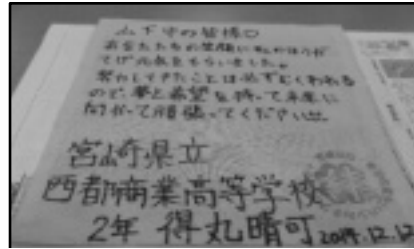
きました。その日は全員家の人の迎えで帰りまして。私は学校の後、習い事に行き、その時ちよつとだけテレビを見せてもらい地震のことを知りましたが、その後知ることになるような大災害が起きたなんて思つてもいませんでした。

私は今回の研修を終えて、事前の講習会で見たビデオよりもかなり復興が進んでいたのが、驚きました。事前に見た映像は3・11直後のもので、建物や車、家などが跡形もなくぐちゃぐちゃになつた状態でした。このような場所に行つて、私は被災した方をサポートできるのかととても不安になりました。しかし、実際に被災現場に行くと、家や学校が新築されており、年明け頃にはもつと仮設住居が建つというところで、町長さんを始め、町民の皆が力を合わせて頑張ってきたんだと身にしみて感じました。私たちにできるサポートはシクラメンの配布の時に町民の方をさらに笑顔にすることだけだと思ひ、たくさんの人たちとお話しました。中には三歳くらいの子供もいて、東日本大震災を知らず、生まれた時から「復興」という言葉を聞き続けて生活している人もいました。なぜ私たちが訪問しているのが分からない子供もいました。そんな子供たちのためにも今、平和に生活できている私たちが一生懸命生きて、遠くから宮城県山元町を見守っていききたいです。

若人の絆！復興事業は今年度で終わりというこ

とです。事業が終わっても、また行く機会があれば是非行きたいと考えています。

今回この事業に推薦してくださった校長先生をはじめ、先生方、本当にありがとうございました。心から感謝しています。この貴重な経験を今後の生活に生かし、困っている人に優しく、頼もしい生徒会長になりたいです。



山下中学校で書いた黄色いハンカチ